

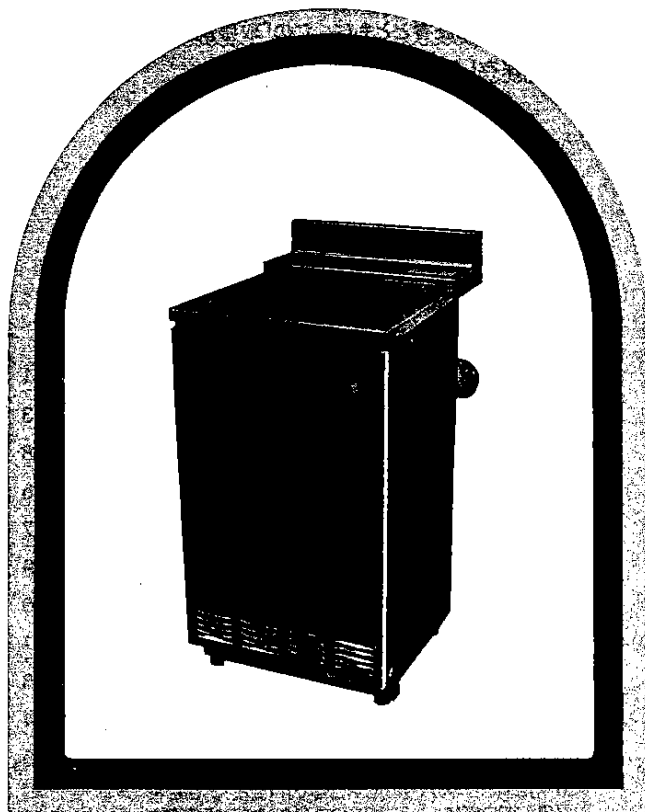


大阪ガス

ガス給湯暖房機 シンプルシステム I・MII

取扱説明書 44-685・686・687型

型式 HW-20F3(G)
HW-20F3(P)



●ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。
なお、ご不明な点があればお求めの販売店にお問い合わせください。

大阪ガスのお問い合わせ先

大阪支社	大阪市西区千代崎3-2-95	電話 大阪 06 (565)3200	〒550
南部支社	堺市住吉橋町2-2-19	電話 堺 0722(38)1131	〒590
北部支社	高槻市藤の里町39-6	電話 高槻 0726(71)0361	〒569
東部支社	東大阪市稲森2-3-17	電話 河内 0728(62)1131	〒578
兵庫支社	神戸市中央区東川崎町1-8-2	電話 神戸 078(360)3100	〒650
京阪支社	京都市下京区中堂寺薬師町1番地	電話 京都 075(311)7361	〒600
奈良支社	奈良市学園北2-4-1	電話 奈良 0742(44)1111	〒691
和歌山支社	和歌山市本町1-5	電話 和歌山 0734(31)2461	〒640
兵庫西支社	姫路市神屋町4-9	電話 姫路 0792(65)2221	〒670
豊岡支社	豊岡市三坂町6-57	電話 豊岡 0796(23)2221	〒668
滋賀支社	草津市湯分町字荒尾680-1	電話 草津 0775(62)5311	〒525
滋賀東支社	彦根市大栗町12-11	電話 彦根 0749(22)3131	〒522
横浜支社	横浜市長浜町3-4	電話 横浜 0749(62)7171	〒526
本社・ガスビルサービスセンター	大阪市中央区平野町4-1-2	電話 大阪 06 (202)2221	〒541

大阪ガス株式会社

ごあいさつ

このたびは、大阪ガスの給湯暖房シンプルシステム
〈**エヌⅡ**〉をお求めいただきありがとうございます。
ます。

別添の保証書とともに、この「取扱説明書」を大切に
保存してください。

も く じ

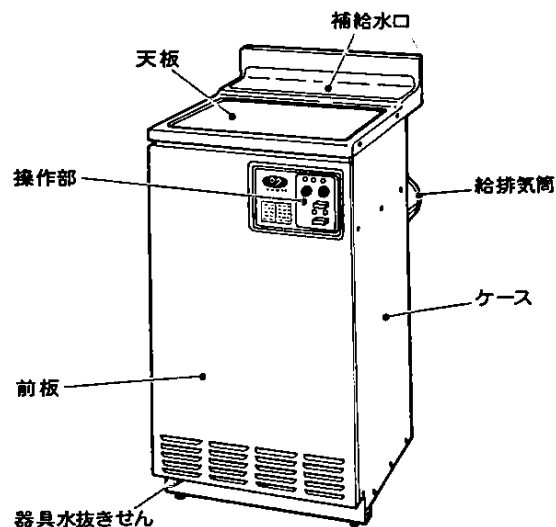
●各部の名称	1
●特に注意していただきたいこと	3
●使用手順	8
●凍結防止について	15
●安全装置が作動したときの処置方法	17
●日常の点検・手入れ	19
●故障・異常の見分け方と処置方法	20
●寸法図と仕様一覧表	21
●長期間使用しない場合	23
●アフターサービスのお申し込み	24
●本製品と快適な暮らしのために	25

各部の名称

外観・構造

●後方排気型

44-685型(型式HW-20F3(G)・HW-20F3(P))

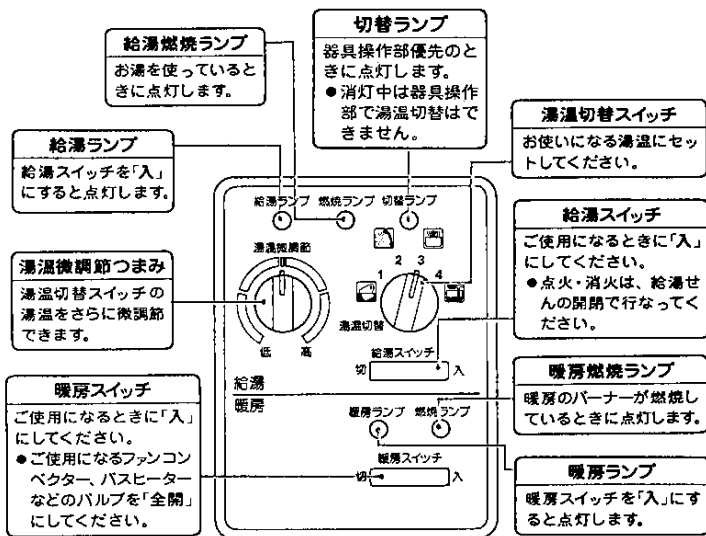


●排気出口変更

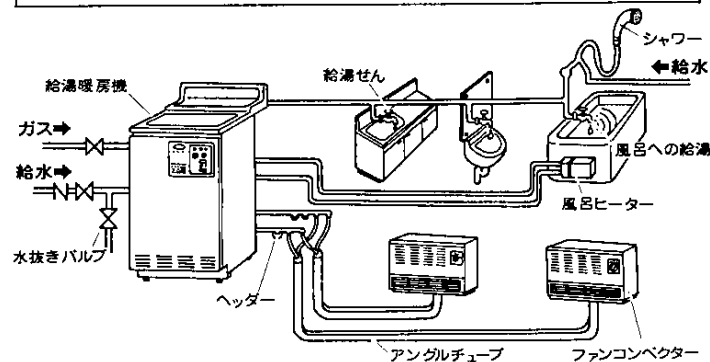
〈左排気〉44-686型(型式HW-20F3(G)・HW-20F3(P))
〈右排気〉44-687型(型式HW-20F3(G)・HW-20F3(P))

各部の名称②

<器具操作部>



ガス給湯システム< JASII >(44-685)の概要



特に注意していただきたいこと

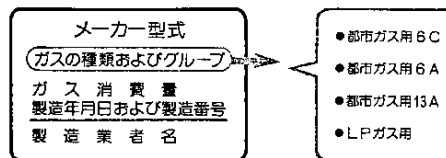
安全に正しくお使いいただくために、この項は必ずお読みください。

使用ガスについてのご注意

●ガスの種類を確かめてください。

ガス器具本体前面下部にはってある銘板(ラベル)に表示のガスの種類と、お宅のガスが一致しているかをまず確かめてください。

<銘板>



●ガスの種類には、都市ガスとLPガスとがあり、都市ガスには、ガスグループの区分があります。

●転宅されたときにも、供給ガスの種類と器具銘板のガスの種類の一致を必ず確かめてください。

使用電源についてのご注意

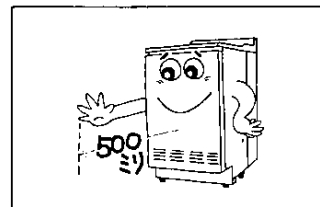
●電源の電圧と周波数を確かめてください。

この器具はAC100V、60ヘルツ用です。器具の銘板に表示してある電源(電圧・周波数)とお宅の電源の電圧と周波数が一致しているかお確かめください。

使用場所についてのご注意

●屋内専用の器具です。屋外には絶対取り付けないでください。

●正面は、保守・アフターサービス上、500mm以上の空間が必要です。また、保守・アフターサービスのときに天板をはずしますので、天板を壁やタイルなどで埋め込まないでください。

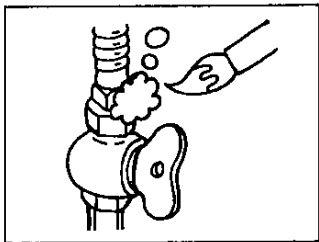


特に注意していただきたいこと②

使用時のご注意

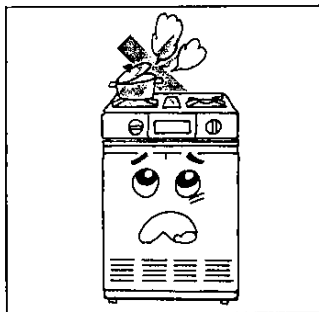
(1) ガス漏れ予防

- 使用後は、燃焼ランプが消えたことを確かめてください。
- 長期間使用しないときは、必ず給湯スイッチおよび暖房スイッチを切り、ガス元せんを閉めてください。
- 配管や器具との接続部からガスが漏れていないか、ときどき石けん水などで調べてください。

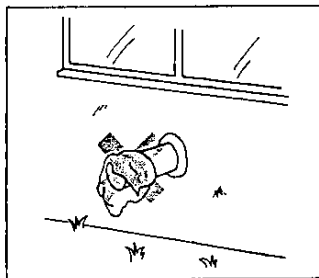


(2) 火災予防

- 器具の上にはガステーブル・こんろなどの燃焼器具を設置しないでください。
- 異常に加熱しますと、電気部品が破損します。
- 外装に変形が生じます。
- 油分や空気中のほこりが内部に入りますと、いちじるしく性能が悪くなります。



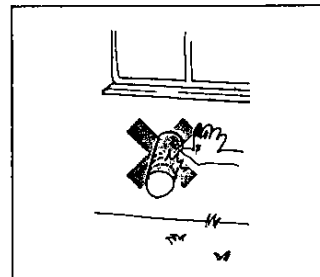
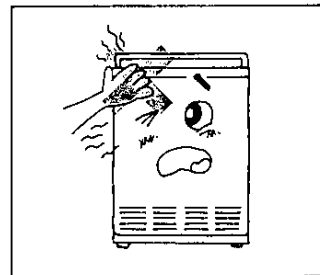
- 給排気筒に物をのせたり、立て掛けることは危険ですから絶対に避けてください。



特に注意していただきたいこと③

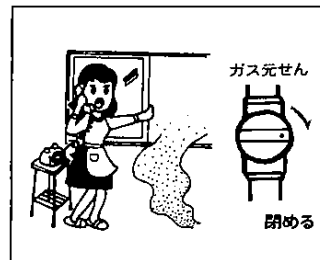
(3) 火傷にご注意

- 使用中および消火直後は、前板や、排気口が高温になっていますので、絶対に手を触れないでください。



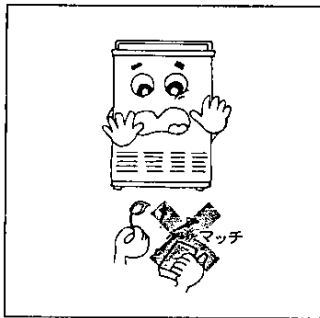
(4) ガス事故防止

- ガス漏れに気づいたときは、すぐ使用をやめてガス元せんを閉め、お求めの販売店かガス会社にご連絡ください。



特に注意していただきたいこと④

- 万一ガスが漏れたときは、絶対に火をつけたり、換気扇その他電気器具に触れたり(スイッチの「入」、「切」や電源プラグの抜き差しなど)しないでください。火や火花で引火し爆発事故をおこすことがあります。



(5)凍結についてのご注意

- 冬期は、寒冷地だけでなく、暖かい地方でも急な寒波のため器具内の水が凍って、器具を破損することがあります。詳しくは、15～16ページの「凍結防止について」をお読みください。

(6)異常時の処置

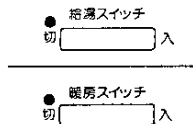
- 万一、異常燃焼(メーンバーナー着火時や使用中に“ゴー”と音のするような燃焼)をおこしたときや、緊急の場合には、下図の処置をし、お求めの販売店がガス会社に連絡してください。

1. 給湯せんを閉める。



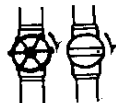
お湯の使用場所

2. 給湯スイッチおよび暖房スイッチを「切」にする。



器具操作部

3. 給水元せん・ガス元せんを閉める。



器具の後部

特に注意していただきたいこと⑤

(7) たまった水は飲まないでください

- 器具内に長時間たまった水は飲用または調理に用いないでください。

(8) アース(接地)のご確認

ご使用前に、次のいずれかの方法で正しくアースされていることを必ずお確かめください。

- 分電盤内のアース端子へアース線が接続されているか。
- アース棒を使用しているか。
- コンセントのアース端子へアース線が接続されているか。

[ご注意] アース工事がされていない場合は、漏電しゃ断器が付いていることを確認してください。

ポンプロック予防について

- 給湯をお使いになると温水循環用ポンプが約30秒運転することがありますが、ポンプロック予防のためで異常ではありません。

日常の点検・手入れ

- 日常の点検・手入れは、必ず行なってください。(詳しくは19ページをお読みください)
- 故障または破損したと思われる場合は、お求めの販売店がガス会社にご相談ください。不完全な修理は危険です。

器具の設置について

(詳しくは工事説明書をお読みください)

- 器具の設置は、お求めの販売店がガス会社に依頼してください。
- 安全な位置に正しく設置されているか確認してください。

使用手順

点火前の準備と確認

1. 給水元せんを全開にしてください。
2. 給湯せんを開け、水の出ることを確認してから閉めてください。
3. ガス元せんを全開にしてください。
4. 器具用のブレーカを「入」にしてください。



器具の後部



お湯の使用場所



器具の後部



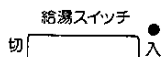
ブレーカ
屋内の分電盤

給湯の使い方

点火

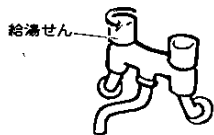
① 給湯スイッチを「入」にします

(給湯ランプ(緑色)が点灯します)



② 給湯せんを開けます

- パイロットバーナーとメインバーナーに点火し、お湯が出ます。
(点火と同時に、燃焼ランプ(赤色)が点灯します。)



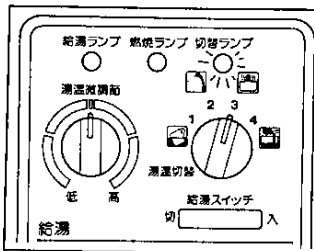
[注] 給湯燃焼ランプ(赤色)が点滅しているときは、お湯になりません。このような場合は、いったん給湯せんを閉め、しばらく待ってから給湯せんを開けてください。給湯せんを開け、約20秒以内に点火しなかった場合は、自動的にガスを停止し、給湯燃焼ランプ(赤色)の点滅動作でお知らせします。

使用手順②

湯温調節

① 切替ランプの確認

点灯していることを確認してください。



② 湯温切替スイッチを切り替えます

- お使いになる湯温にセットしてください。

(季節により多少変化することがあります。)

(湯温微調節つまみを「高」と「低」の中間にしたとき)

数字	絵文字	湯温(目安)
4		高 温 約 80℃
3		やや熱め 約 50℃
2		シャワーなど 約 43℃
1		ぬるま湯 約 37℃



- 中間の位置にセットしても湯温は切り替わりません。

③ 湯温微調節つまみを調節します

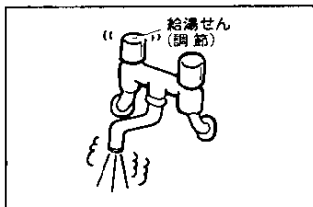
- 湯温をさらに微調節されるときに操作してください。1目盛で約1~2℃の温度差があります。



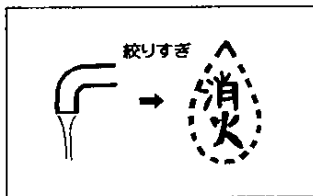
使用手順③

給湯

●湯量の調節は、水道を使用される要領で給湯せんを調節してお使いください。

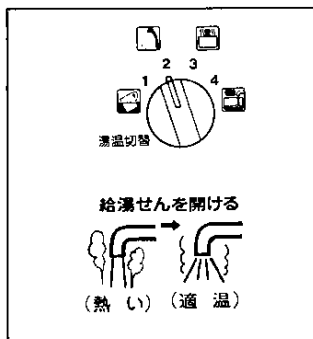


●湯量を約2ℓ/分以下に絞りますと、メインバーナーの火が消えるようになっていきます。



夏期には

●水温が30℃近くになりますと、湯温切替スイッチを「1」にセットしても湯量が少ないうちは、湯温が熱くなります。このような場合は、湯量を多く出してお使いください。



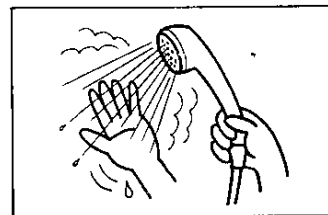
〔注〕

- 給湯せんを調節すると、水の中の空気が分離して、気ほうとなり、湯が白くなることがありますが、空気ですので何ら心配はありません。
- 2カ所を同時使用されると、ぬるくなったり、湯量が少なくなることがあります。特にシャワー使用中は同時使用はやめてください。

使用手順④

●シャワーをご使用のときは、いきなり体や頭にはかけずに、手で湯温を確認してからお使いください。

〔シャワーをお使いになってお湯を止めた直後、再度お使いになるときや、湯量を急に絞ったときには、一瞬熱い湯が出る場合があります。〕



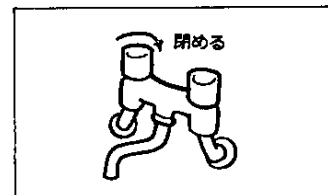
消火

① 給湯せんを閉めます

●お湯が止まり、メインバーナーが消火し、給湯燃焼ランプ(赤色)が消えます。

●メインバーナーの消火後、約7分間は、パイロットバーナーのみ燃焼し、排気ファンは運転状態になっています。これは、再使用時の点火をより早くするためのものです。

〔約7分経過後、自動的にパイロットバーナーも消火し、排気ファンの運転が止まります。〕



●次にお使いになるときは、給湯せんを開けるだけでメインバーナーに着火してお湯が出てきます。(給湯スイッチを「入」にした状態)

お出かけや、おやすみの際など

② 長時間使用しない場合

給湯スイッチを「切」にし、ガス元せんを閉めてください。
〔給湯ランプ(緑色)が消えます〕

1. 給湯スイッチを「切」にする。

● 給湯スイッチ
切 入

器具操作部

2. ガス元せんを閉める。



器具の後部

使用手順⑤

暖房の使い方

① バルブを全開にします

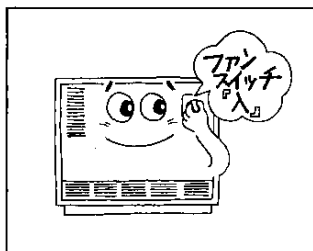
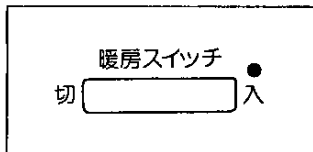
- 暖房配管またはご使用になるファンコンベクター、バスヒーターなどのバルブを全開にしてください。
ファンコンベクターに電動弁を使用している場合は、ファンコンベクターの切替スイッチを「ON」にすると自動的に「開」になります。

点火

② 暖房スイッチを「入」にします

- 暖房スイッチを「入」にしてください。
- 暖房ランプ(緑色)が点灯し、自動的にメインバーナーに着火し、燃焼ランプ(赤色)が点灯します。
- 室内のファンコンベクターのファンスイッチを入れると、しばらくしてファンが回り、暖かい空気が出て室内を暖房します。

【注】 ファンコンベクターのファンスイッチを急に「停止」にすると、「コトン」という音がすることがあります。ファンスイッチはゆっくりと操作してください。



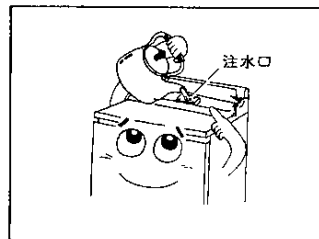
※ マルチコントロールシステムの場合

- ①暖房スイッチを「切」のままで、ファンコンベクターのファンスイッチを「入」にしてください。
- ②暖房ランプが点灯し、自動的にバーナーに着火し、燃焼ランプが点灯します。(そのとき、ファンコンベクターの運転ランプが点灯します)

使用手順⑥

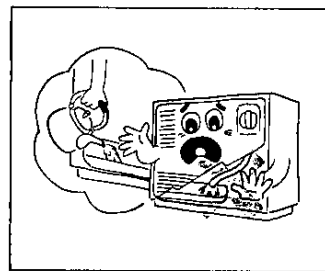
【注】

- 暖房ランプ(緑色)が点滅しているときは、暖房スイッチを「切」にし、補給水タンクに補給してください。補給水タンクの水は蒸発しますので約1か月に1度くらい水を補給してください。(暖房の使用時間により異なります)



- 補給水はフィルター内に水が見えるまで注水してください。
- 水の減りかたが速かったり、急に速くなった場合は水漏れしている可能性があります。配管をよくお調べのうえお求めの販売店がガス会社にご連絡ください。
- 暖房水は不凍液の溶液です。適正濃度を保つために1年に1度は不凍液濃度の点検をお求めの販売店がガス会社にお申しつけください。
- 燃焼ランプ(赤色)が点滅しているときは燃焼していません。このような場合は、いったん暖房スイッチを「切」にし、しばらく待ってから暖房スイッチを「入」にしてください。
(暖房スイッチを「入」にして、約20秒以内に点火しなかった場合は、自動的に)ガスを停止し、燃焼ランプ(赤色)の点滅動作でお知らせします。
- 室温が高い場合には、暖房スイッチを「入」にしても燃焼ランプ(赤色)が点灯しない場合があります。

- ファンコンベクターに加湿水を補給する場合は、ヤカンなどにより注水してください。
(加湿器のあるファンコンベクター)の場合。

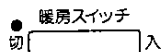


使用手順⑦

消火

① 暖房スイッチを「切」にします

バーナーが消火し、暖房燃焼ランプ(赤色)・暖房ランプ(緑色)が消えます。

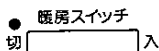


お出かけや、おやすみの際など

② 長時間使用しない場合

暖房スイッチを「切」にし、ガス元せんを閉めてください。
〔暖房ランプ(緑色)が消えます〕

1. 暖房スイッチを「切」にする。



器具操作部

2. ガス元せんを閉める。



器具の後部

停電後の使用方法

- 停電すると自動的にガスが止まり、給湯・暖房とも燃焼が停止します。
- 再通電したときは、給湯・暖房とも自動的に復帰し、再燃焼します。
- 長時間停電したときは、念のため給湯せんを開めて、給湯スイッチ・暖房スイッチを「切」にしてください。
- 再通電したときは、8および12ページの「■点火」に従って操作してください。

凍結防止について



- 凍結すると器具や給湯配管が破損して、水漏れをおこしたり、器具が異常(空だきなど)をおこす危険があります。
- 凍結による修理は有料です。

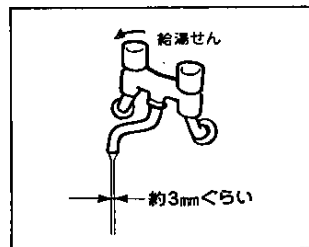
凍結防止方法

給湯

① 給湯せんから水を流す方法

● ガス元せんを閉め、給湯スイッチを「切」にして、お風呂場の給湯せんを開け、1分間に約200cc(牛乳びん1本ぐらい)の水を浴そうに流し込んでください。

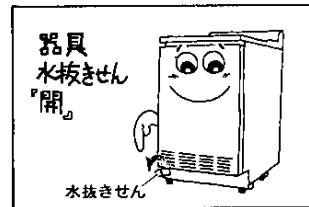
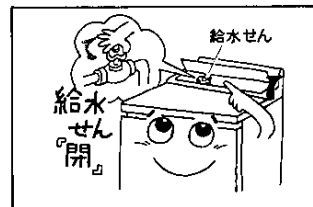
● 流量が不安定なことがありますので、念のため約30分後にもう一度流量をお確かめください。



② 水抜きによる方法

次の順序で行なってください。

- (1) 給湯スイッチを「切」にし、ガス元せんを閉める。
- (2) 給水元せんをしっかりと閉める。
- (3) 器具の水抜きせんを開け、皿で水を受ける。
- (4) すべての給湯せんを開ける。
 - 水抜きせんと、給湯せんから水が抜けるのをお確かめください。
- (5) 水が出なくなると、器具の水抜きせんを元通りしっかりと閉める。



凍結防止について②

〈水抜き後の使用方法〉

- (1) ガス元せんを閉めた状態、および給湯スイッチを「切」にした状態で給水元せんを開け、給湯せんから水が出るのを確かめののち、給湯せんを閉めてからお使いください。
- (2) 再使用するときは、8 および 12 ページの「■点火」に従って操作してください。

ご注意

- もし凍結して水が出ないときは、使用をひかえ(給湯スイッチを「切」にした状態で)、給湯せんを開け、水が出るまで待ってからお使いください。

暖房

- 不凍液をご使用ください。
(不凍液については、お求めの販売店がガス会社に相談してください)

凍結したとき

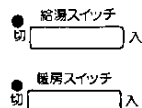
- 凍結した場合、ガス元せん・給水元せんを閉めてください。凍結したまま使われますと器具に異常が生じる場合があります。
- 解凍したあと、水漏れがないのを確認のうえご使用ください。
- 器具や配管が破損しますと、高額の修理費用がかかる場合があります。(有料)

安全装置が作動したときの処置方法

処置について

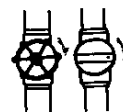
- 点火しなかったり、ご使用中にメインバーナーが消火したときは、20 ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」に従ってください。
また、次の安全装置が働いた場合には、給湯スイッチ・暖房スイッチを「切」にし、ガス元せん・給水元せんを閉めてからお求めの販売店かガス会社にご連絡ください。

1. 給湯スイッチおよび暖房スイッチを「切」にする。



器具操作部

2. 給水元せんおよびガス元せんを閉める。



器具の後部

3. お求めの販売店かガス会社へ……



連絡

パイロット安全装置

- パイロットバーナーの炎が消えたときは、安全装置が働いて自動的にガスが止まり、給湯燃焼ランプまたは暖房燃焼ランプ(赤色)の点滅動作でお知らせします。
このような場合は、8 ページの方法で再点火してください。

空だき防止装置(暖房)

- 暖房回路の水が減りまずと水位スイッチが作動して自動的に運転が止まり、暖房ランプ(緑色)の点滅でお知らせします。
このような場合は、13 ページの方法で補給水タンクに補給してください。

空だき安全装置(給湯・暖房)

- 万一、メインバーナーの火が消えずに、湯温が異常温度上昇したときは、ガスが自動的に停止します。

安全装置が作動したときの処置方法②

過熱防止装置

- 万一、器具が異常温度上昇したときは、ガスを自動的に停止します。

電流ヒューズ

- 過電流が流れますと、自動的に運転を停止します。

過圧逃し弁(給湯)

- 器具内の水圧が異常に上昇したときに作動し、器具内の圧力を下げて、器具の損傷を防止します。

停電時安全装置

- 使用中に停電になると停電用安全回路が作動し、ガスを自動的に停止し、運転が止まります。
停電後の使用方法については14ページの「停電後の使用方法」をお読みください。

ファン回転検知装置

- ファンが所定の回転数以上で回らなくなったとき、検知装置が働いて、自動的にガスを止め、運転が止まります。

水流スイッチ

- 給湯量を約2ℓ/分以下に絞りますと、自動的にガスが止まります。

日常の点検・手入れ

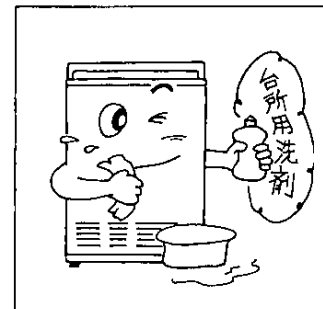
点検・手入れの前には、必ず給水元せんとガス元せんを閉め、器具操作部の給湯スイッチ・暖房スイッチおよび分電盤のブレーカを「切」にして、器具が冷えてから行なってください。

点検

- 器具および配管より水漏れ・ガス漏れはありませんか。
(ガス漏れは、配管接続部に石けん水などを付けて調べてください)
- 運転中に、器具から異常音が聞こえませんか。
- 器具の外観に異常は見られませんか。
- 器具のまわりに燃えやすいものはありませんか。

お手入れ

- 器具の表面が汚れたときは、布またはスポンジに台所用洗剤(中性洗剤)をつけてふき取ってください。
シンナー・ベンジンなどではふかないでください。



[注] 器具操作部の内部には電気部品が入っていますので、ぬらさないようにしてください。

定期点検のおすすめ

- ご使用上支障がない場合でも、不慮の事故を防ぎ、安心してより長くご使用いただくために、年1回程度の定期点検をおすすめします。お求めの販売店かガス会社にご相談ください。

故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中に、ふだんと違った状態になったときや不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、ただちにご使用を中止して、十分な点検をお願いします。

現象	原因										処置方法	お求めの販売店かガス会社	
	寒い日に排気口から湯気が出る	給湯せんを開けても湯が出ない	使用中に水になる	高温の湯が出ない	低温の湯が出ない	使用中に湯温が極端に変動する	給湯せんが点灯しない	燃焼音が大きい	燃焼音が小さい	燃焼音が異常な音			燃焼音が異常な音
原因 (○=主要原因 △=原因)													
ブレーカが「入」になっていない	○												
ガス元せんの開き不十分	△	△	○		△				△	△			
配管内に空気が残っている	△	△	△		△				△				
ガス圧が低い	△	△	△		△				△				
ガス圧が高くない	△	△											
給湯せんを開き不十分	○	△		○	△								
水圧が低い	○	△			△								
水圧が高くない					△								
水フィルターの詰まり	△	△		△	△								
断水している	○												
凍結している	○												
バーナー吸口の詰まり	△	△	△						△	△			
空気吸込口の詰まり	△	△	△										
熱交換器の目詰まり	△	△	△										
湯温調節が適切でない	○	○	○	○									
給湯せんの開き不足	△	△		○	△								
ノズルの詰まり	△								△				
安全装置が作動した	○	○								○			
水流スイッチの故障	△	△	△	△	○								
電気部品の故障	○	△	△	△		○	○	○					
ポンプが回転しない									○				
水フィルターまたはポンプのごみ詰まり										○			
補給水タンクの水不足										○			
燃焼用ファンが回転しない	○									○			

処置方法や原因のわからないときは、お求めの販売店かガス会社へご連絡ください。

寸法図と仕様一覧表

器種名		ガス給湯暖房機			
型式名		HW-20F3(G) HW-20F3(P)			
品番		44-685	44-686	44-687	
種類	給湯方式	先止め式			
	暖房方式	温水循環方式			
	給排気方式	強制給排気方式			
設置方式		屋内設置方式			
点火方式		電子イグナイタによる連続放電点火式			
外形寸法		高さ800mm×幅450mm×奥行550mm(配管スペースを含む)			
重量		50kg(運転時55kg)			
水圧	使用水圧	1kg/cm ² 以上			
	作動水圧	0.3kg/cm ²			
最低作動水量	給湯	2ℓ/分			
	暖房	0ℓ/分以上(締切り使用可能)			
ポンプ機外揚程		5.0mH ₂ O(5ℓ/分のとき)			
温度制御方式	給湯	電子式比例制御方式			
	暖房	電子式 Hi-Lo-OFF制御方式			
温度調節	給湯	(1)	(2)	(3)	(4)
		約37℃	約43℃	約50℃	約80℃
暖房	Lo~OFF: 73~88℃ HI~Lo: 70~85℃				
	給湯	Hi一定(強回転)			
排気ファン制御方式	給湯	Hi一定(強回転)			
	暖房	負荷による Hi-Lo-OFF制御			
同時	Hi一定(強回転)				
安全装置		パイロット安全装置・空だき防止装置・空だき安全装置 過熱防止装置・電流ヒューズ・過圧逃し弁・停電時安全装置 ファン回転検知装置・水流スイッチ・誘導管保護装置			
消費電力		最大 140W			
接続	ガス	PT $\frac{1}{2}$ オネジ			
	給水・給湯	給水・給湯配管用 15Aソルダー継手付き			
	暖房	暖房配管用 15Aソルダー継手付き			
	オーバーフロー	PT $\frac{1}{2}$ オネジ			
電気	本体電源 AC100V・60Hz				
付属品	15Aソルダー継手(5コ)・給排気筒				

寸法図と仕様一覧表②

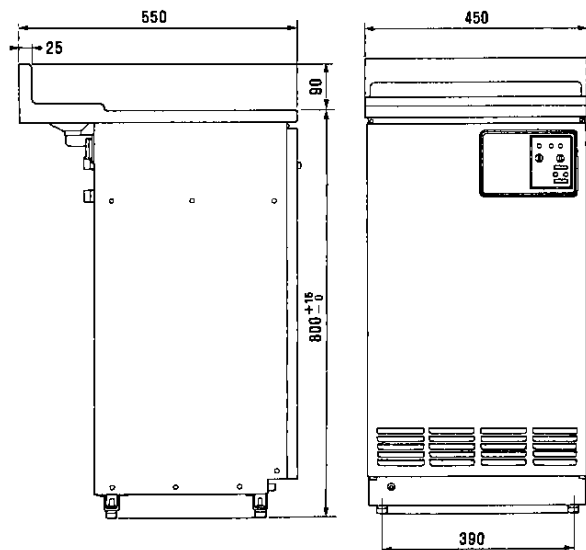
使用ガス 使用ガス グループ	型 式 名	1時間当たりのガス消費量 (kcal/h)				標準出力 (kcal/h)		
		全ガス 消費量	給湯ガス消費量 最大	暖房 最小 ガス消費量	暖房 最大	能力最大時 給湯	暖房	時
都 市 ガ ス 用	4 B	/	/	/	/	/	/	/
	4 C	/	/	/	/	/	/	/
	5 C	/	/	/	/	/	/	/
	6 A	29,500	24,300	8,500	8,500	19,500(13号)	7,000	
	6 B	30,600	24,300	8,500	8,500	19,500(13号)	7,000	
	6 C	/	/	/	/	/	/	/
用	7 C	/	/	/	/	/	/	/
	12 A	/	/	/	/	/	/	/
13 A	32,000	24,300	8,500	8,500	19,500(13号)	7,000		
LPガス用	HW-20F3(P)	2.58 kg/h	2.0 kg/h	0.71 kg/h	0.69 kg/h	18,750	6,600	

●給湯能力の()内は、水温+25℃上昇に換算した号数です。

●使用ガスグループ中の斜線部は生産していません。

〔外形寸法図〕

〔単位：mm〕



長期間使用しない場合

必ずガス元せん・給水元せんを閉め、器具操作部の給湯スイッチ・暖房スイッチおよび分電盤のブレーカを「切」にして、下記の処置を行なってください。

給湯側

●15ページの②水抜きによる方法を参照のうえ、水抜きを行なってください。

暖房側

●お求めの販売店かガス会社へご連絡ください。

調査のうえ、必要とあればガス会社指定の不凍液を入れさせていただきます。

アフターサービスのお申し込み

サービスのお申し込み

●20ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見てもう一度ご確認ください。

●確認のうえ、それでも不具合な場合、あるいはご不明な場合はご自分で修理なさらないでお求めの販売店かガス会社にご連絡ください。なお、ご連絡いただくときは、次のことをお知らせください。

(1) 品名……………(ガス給湯暖房機〈**エヌエス**〉)

(2) 品番……………前板右下部に貼付しております。

(3) 現象……………(できるだけ詳しく)

(4) 道順……………(できるだけ詳しく)

(N)44-685(U)

大阪ガス株式会社

744 685 05

(AD-204FFA-K)

転居される場合

ガスには都市ガス14種類およびLPガスの区分があります

●ガスの種類が異なる地域へ転居される場合には、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類を確認の上、ガス会社にご相談ください。この場合、調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料となります。

保証書について

この器具には保証書がついています

●このガス給湯暖房機は保証書に記載のように、器具の故障について修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
保証書を紛失されますと、無料修理期間であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

おねがい

ガスくさいときはお部屋の元せんを閉め、窓を全開にしてから(火気に注意して)、大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

本製品と快適な暮らしのために

こまめに湯温切替を!

●水の混合は避け、用途に合わせ、こまめに湯温切替すると、より経済的です。
(混合水せんで湯温調節しますと、調節する間に流れる水とガスがムダになります。)

風呂への給湯・沸き上げは……

●給湯で湯を入れられる場合は、入浴される湯温より少し熱めで給湯し、浴そうにはふたをして、放熱ロスを防いでください。

●ご家族全員が続けて入れる頃に浴そうに給湯もしくは沸き上がるようにしましょう。

